

豊岡で新たな歴史解明へ

「木下藤吉郎」の最後の文書発見

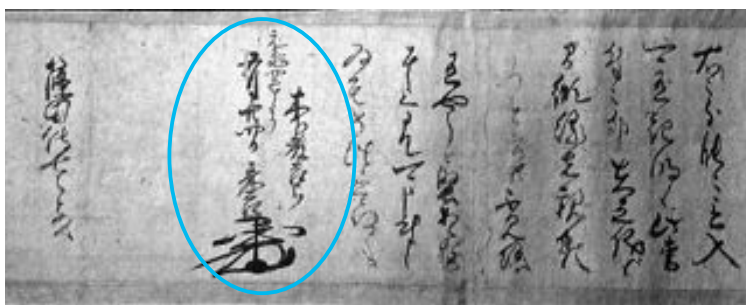
戦国時代、豊臣秀吉が織田信長の家臣で「木下藤吉郎」と名乗っていた時期の最後の文書（縦12・2cm、横77・5cm）が、本市出石町の名主であった家（現在は京都市在住）から見つかりました。

この文書は、1573（元亀4）年5月24日付けで、秀吉が美濃国の川野（岐阜県笠松町付近）の地侍に、土地から得られる収入の調査をするよう命じた内容です。

この時期、秀吉は、浅井・朝倉攻めを行っていた織田軍の一武将として北近江（滋賀県北部）に駐屯し、浅井氏と対峙していました。

その後、秀吉は羽柴姓に改姓しており、地位を上げていく一つの画期が分かる史料になる可能性があります。

また、これまでに確認されている木下姓を使用した最後の史料は、1572（元亀3）年12月25日付けで、羽



▲「木下藤吉郎 元亀四年とり 五月廿四日 秀吉」と花押（サイン）が書かれた文書の後半部分

豊岡の取組み「コウノトリも住める環境づくり」が全国へ

県外で初のコウノトリ放鳥

7月23日、県外では初めてとなるコウノトリの放鳥が、千葉県野田市で行われ、本市から真野副市長が記念式典に出席しました。

式典会場には、三江小学校の児童が作った折り紙のコウノトリ300羽も飾られ、子どもたちのメッセージが紹介されました。

本市で取り組んできた「コウノトリも住める環境づくり」



▲野田市のコウノトリ放鳥式典

豊岡市移住戦略プロジェクト

「TOYOOCOME(トヨオカム)」の始動

8月8日、地方への移住を検討している全国の人たちに、本市への移住を促すため、豊岡市移住戦略プロジェクト「TOYOOCOME(トヨオカム)」の第1回ワークショップ（研究会）を開催しました。

当日は、市民の他に、外部の意見を聞くため東京から広告会社やメディアの関係者等、約80人が参加。全国の移住を考えている人たちの心に響く「豊岡で暮らす価値や魅力」に



▲「豊岡市移住戦略プロジェクト」の第1回ワークショップ（研究会）の様子

主な市政の動き

7月

- 15日・パリ外国人記者協会での市長会見（フランス）
- 16日・2015年ミラノ国際博覧会兵庫県出展事業等参加（17日・イタリア）
- 17日・豊岡市災害警戒本部設置（17日・廃止）
- 城崎・竹野・日高・出石地域災害警戒本部設置（17日・全地域廃止）
- 18日・玄武洞・青龍洞ライトアップイベント（20日）
- 21日・森本診療所新所長就任健康づくり講演会
- 22日・健康づくり講演会
- 23日・豊岡市学校設備審議会
- 玄さん元気教室大交流会

8月

- 27日・豊岡市公営企業審議会
- 29日・黒田裕稀君「IMGA世界ジュニアゴルフ選手権大会」出場報告会・コウノトリ賞贈呈式
- 31日・地域プロデューサーの中間報告会
- 5日・豊岡市行政改革委員会
- 8日・豊岡市移住戦略プロジェクトワークショップ・植村直己を語る会

イタリア・フランスで小さな世界都市「豊岡」PR

ミラノ国際博覧会兵庫県出展事業等に参加

7月16日、イタリアで開催されている「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマにした2015年ミラノ国際博覧会（兵庫県出展事業）とひょうごプレミアムセブションに参加し、コウノトリ育むお米をPRしました。

また、15日には、フランスのパリ外国人記者協会で、豊岡の観光PRを行いました。小さな世界都市「豊岡」の実現に向け、また一歩前進し



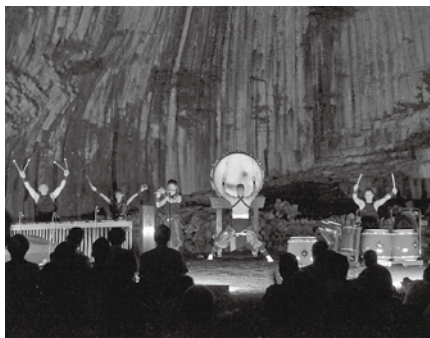
▲コウノトリ育むお米を使用した但馬牛とズワイガニのリゾットの試食

▼パリの外国人記者協会で豊岡をPR



▲ミラノ国際博覧会の日本館のエントランスで流されている映像（コウノトリとの共生農業の紹介）

玄武洞公園が幻想的な空間に大変身 玄武洞・青龍洞ライトアップイベント「LUMP」開催



▲青龍洞を背にした和太鼓演奏

7月18・20日、ライトアップした玄武洞公園で、音楽等を楽しむイベント「Light Up & Music Project ~ LUMP」を開催し、市民ら約1300人が来園しました。初日のオープニングイベントでは、豊岡吹奏楽団の演奏や田鶴野小学校の児童による合唱、地元のダンス教室に通う子どもたちのダンスが披露

されました。夕刻に行った点灯式の後には、ライトアップした青龍洞の前で、和太鼓松村組による演奏が行われ、幻想的な光の空間と迫力ある演奏が来園者を魅了しました。11月3日までの土・日曜日および祝日は、NPO法人玄武洞ガイドクラブによるライトアップが実施されます。

中貝市長の徒然日記 94

ミラノ、パリ紀行

ミラノ万博に行ってきました。パリの空港でパスポートを落として慌てふためくばかりの元へ、拾い主から預かったJALの社員が猛烈ダッシュで出口まで届けていただいた話や、日本時間の朝7時に目が覚めた妻が、洗濯物をドライヤーで必死に乾かし、化粧をしたところで時差がマイナス7時間だと気付いた話などは、この際横に置きます。

万博には140の国や機関が出展し、日本館で流される映像には、コウノトリがシンボルとして扱われています。その縁で、日本館で展開された兵庫ウイークに、豊岡は2時間の枠をいただきJAたじまの尾崎組合長らと共に、来館者に豊岡とコウノトリ米のPRをしてきました。とりわけコウノトリ野生復帰の映像と名人藤原次郎作の豊岡の映像は大いに関心を引きました。城崎・西村屋の高橋料理長が作る但馬牛やズワイガニのリゾットも大好評でした。

日本館のフードコートでは、七つの店舗が日本の食を提供しています。万博期間中そこで提供される米は、すべてコウノトリ米です。約25トン使用される見込みです。

コウノトリ米の農家も会場に来ておられました。スピーチの中で「野生復帰を支えたのはこの米の生産者の皆さんです。その方々がこの会場におられます」と言って立っていただくと、会場から大きな拍手がわきました。それは、とても嬉しい出来事でした。

パリの外国人記者協会では井戸知事と共にプレゼンをしました。昨年城崎国際アートセンターに滞在された俳優のイレヌ・ジャコブ、ジェローム・キルシャーご夫妻にも浴衣で出席いただき、豊岡のPRをしていただきました。モンマルトルにあるお二人のアパートに泊めていただきました。5階のベランダから屋根に上がり、遠くで上がるパリ祭の花火を4人で見ました。フランス映画の屋根の上の猫になったような、静かで幸せな時間でした。La fin